

1. 学校の教育目標
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
 - 1) 第5次カリキュラムが円滑に運用できるよう努める
 - 2) 国家試験合格100%を目指した取り組みを行う
 - 3) 教職員の役割変更を円滑に進めて業務の効率化
 - 4) 受験生確保対策の充実
3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 教育理念・目標

評価基準 4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

評価項目	自己評価	取り組み状況	課題と改善策
① 学校の理念・目的・育成 人材像は明確になっているか	4	カリキュラム改正に伴い、教育理念・教育目的を検討し、学習の手引き、学校案内、ホームページに明記している。3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）も検討し、入学時だけでなく、学年の始講時に学生に説明している。ホームページに掲載している。	シラバス等にも文章として明確化しており、目にすることができる状況だが、日々の教育の中で実践につながるような教育方法や内容の工夫が必要。アセスメントポリシーは検討済であるため、周知する。
② 学校における職業教育の 特色は何か	4	実践力強化を満たすため臨床現場を想定した教育方法を取り入れている。認定看護師・医師など専門職の講義を取り入れ現場に即した教育内容を取り入れている。職業につくために必要な知識・技能を習得できるようカリキュラムを構築した。	引き続き継続する。
③ 社会経済のニーズ等を踏 まえた学校の将来構想を 抱いているか	3	18歳人口の減少や4年制大学の増加など看護専門学校の入学希望者は減少する傾向にある。コロナ渦以降、安定した職業を希望することもふまえ、高校卒業生だけでなく、大学卒業生や他職種経験者にも目を向け、様々な生活背景や家族背景に関わらず学べる環境を留意している。	社会の変化に対応できる基盤づくりが必要である（広報活動の強化、人材育成、財務の強化、実習病院の確保）。少子化問題は年々変わらないため、定員確保に向けた取り組みを継続していく。
④ 学校の理念・目的・育成 人材像・特色・将来構想 などが学生・保護者等に 周知されているか	4	学習の手引き、ホームページ、オープンキャンパスなどで明確に周知している。2025年度は予定通りオープンキャンパスを7回実施し、入試対策講座も2回実施、学校の理念・目的等を周知することができた。	引き続き2026年度も継続する。

(2) 学校運営

評価基準 4 : 適切、3 : ほぼ適切、2 : やや不適切、1 : 不適切

評価項目	自己評価	取り組み状況	課題と改善策
① 目的等に沿った運営方針や事業計画が策定されているか	3	目的に沿った運営方針は策定できていない。事業計画は明文化していないが、行事予定表を作成し、教職員と学生に共有できている。	運営方針について毎年立案確認していき、次年度につなげる必要がある。毎年立案確認していき、次年度につなげる必要がある。各学科・学年で目標・計画を設定し取り組んでいく。
② 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	必要時運営会議を実施し、要望など検討している。委員会規定や委員会組織図を作成できていない。年間評価を全体会議で共有している。	引き続き継続する。
③ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	設置者である法人と連携し、規程に基づき整備している。人事や給与規定も策定されている。採用については、定年を含めた退職者の増加に伴い、看護教員の確保が問題である。	引き続き継続する。
④ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	理事会・評議員会は定期に開催されており、予算・決算・事業計画等検討されている。また運営会議を適宜行い点検している。	今後も医療界のニーズをとらえて検討していく。
⑤ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	作成されたガイドラインに基づき取り組んでいる。学生に対しては入学オリエンテーションや実習オリエンテーションにおいて社会的規範について説明している。	引き続き継続する。
⑥ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	HPとインスタグラムを併用し、教育活動(行事や演習)の様子を情報公開している。昨年と比べ、発信する機会も多くなった。	運用をシステム化し、学生のニーズに合わせた情報公開が継続できるよう、環境を整える。
⑦ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	成績や学生情報の管理など成績管理システムを活用している。共有フォルダを活用し、効率化を図っている。インフォクリッパーの機能を活用し業務の効率化を図っている。	引き続き継続する。

(3) 教育活動

評価基準 4 : 適切、3 : ほぼ適切、2 : やや不適切、1 : 不適切

	評価項目	自己評価	取り組み状況	課題と改善策
①	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	目的に沿った運営方針は策定しており、学生便覧、履修の手引き、HPに明記している。実習先や講師にも周知している。2025年度は新カリキュラム4年目であり、昨年度の反省を踏まえ、学科進度や学年ごとの科目配置についても検討を行った。これにより、学科進度については順序性を考え効果的に進めるよう計画はできたが、外部講師や教員のスケジュールの関係で実施面で課題もある。臨地実習についても、すべての実習を予定通り臨地で行うことができた。	教育活動への影響もなく遂行できた。週の講義時間については、外部講師と教員の講義進度が関連してくるため、開講時期の調整なども行い、修正を図っていく。
②	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	新カリキュラムの単位数の増加により、過密なカリキュラムとなる時期もあるが、調整はできた。	引き続き継続する。
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	基礎分野14単位320時間、専門基礎分野22単位505時間、専門分野45単位1170時間、臨地実習23単位900時間を設定し、カリキュラムツリーで体系的に構成するようにしている。学生に説明し周知できている。	引き続き継続する。
④	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	教育方法の工夫と合わせ、効果的な講義方法の検討も行えている。新カリキュラムからキャリア教育を専門分野に取り入れ、キャリア専門の講師に教授を依頼している。金の糸プロジェクトにも応募・参加し、専門的なキャリア教育が行えるよう環境を整えている。	次年度も継続する。
⑤	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	2025年度はカリキュラム評価の一環として、卒業後6か月の新人看護師と関連部署の管理者に対して、DPの到達度に関するアンケートを実施し、振り返りの機会となった。教育内容の見直しは検討しているが、カリキュラムの見直しまでには至っていない。	カリキュラム見直しの実践は行えなかったが、卒業生の状況から当校のカリキュラム評価を行い、学校評価の一助とする。アンケートは今年度も継続して実施する。今後カリキュラム改正に向けての材料とする。

⑥	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2	学校関係者評価や外部評価は行っていない。	2026年度の学則変更により、自己点検・自己評価の定例化、学校関係者評価も進めていく。実習病院や卒業生の就職病院で評価を実施していく。
⑦	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	終講時にアンケートを実施することにより、回収率は100%である。現在まで学内教員の15時間以上の授業についてのみ実施している。計画通り、2024年度より外部講師に対しても実施し、必要時情報を提供している。	カリキュラム評価のためにも、引き続き継続する。集計の利便性を考え、Webポータルによる授業評価システムを検討するが、匿名性の確保や回収率の問題から、引き続きペーパー方式で継続する。
⑨	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	履修規程や取り決めで成績評価の方法は明示している。一定の評価基準以上で単位認定を行っている。成績については前期・後期に分けて、保護者宛に成績表を渡している。進級・卒業判定については、会議で検討する事で共通理解を図りながら判定をしている。	次年度も継続する。
⑩	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	教科外活動として各学年で国家試験対策の時間を確保している。	次年度も継続する。
⑪	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	2025年専任教員は学校長を除き8名であった。教員講習未受講の教員の授業は実施してしない。	2026年専任教員は学校長を除き10名であり（今年度受講予定者1名含む）、今後も教育経験を活かした授業が行えるような体制を維持していく。
⑫	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	専門分野について実績のある講師に講義の担当を依頼している。専門分野、専門基礎分野でも認定看護師の資格を持つ講師を5名以上講師に迎え、学生にとって専門性の高い教員となるよう意識できている。	次年度も継続する。
⑬	関連分野における知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	専任教員の教育力向上のため、学会や研修会の情報提供は行うように努めているが、看護協会や業者のセミナーがあっても実習のスケジュールと重なり参加できないことが多かった。2026年2月に実習病院で合理的配慮に関する情報共有会の機会があり、2名の教員が参加できたので伝達講習を機会を設け、知識の共有の場とした。	学校教育法改正に基づき、教員の質向上も点からもスケジュール調整を行い義務化できるよう努める。看護学校協議会の研修委員会は出席できたが、できるだけ多くの教員が参加できるよう調整したい。

(4) 学修成果

評価基準4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

評価項目		自己評価	取り組み状況	課題と改善策
①	就職率の向上が図られているか	4	2025年度は96%であり（2月末現在）全員が大阪府下への就職であった。就職担当者が2年時の11月と3月にガイダンスを行い（マイナビ主催）、個別相談を行っている。昨年と同様、1年3月にキャリアガイダンス（マイナビ主催）を取り入れ、看護師を目指すモチベーションに繋がるような支援を取り入れた。	就職ガイダンスやキャリアガイダンスは今後も継続し、学生のなりたい看護師像が見つかるような支援や、卒業後のキャリアについても時期に応じてイメージできるような機会を確保する。
②	資格取得率の向上が図られているか	4	国家試験率は90%であった。カリキュラムとして教科外活動で体系的に計画し取り組んでいる。教員のみでなく必要時業者にも専門的な支援を求めるようなカリキュラムを構築している。3年時の国家試験対策は以前より依頼していたが、2025年度より1年時にも、国家試験をイメージしやすいように、学習の仕方を含めて講義してもらった。	引き続き継続する。
③	退学率の低減が図られているか	4	昨年度は3.3%であったが、今年度は8.9%と上昇した。うち半数が1年生の退学であり、入学後半年以内の進路変更のケースも多く見られた。	引き続き細やかな学生指導と、保護者への対応を心がけていく。
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	就職先が実習病院の場合は、看護部の協力を得て、情報収集に努めている。昨年度に続き、ホームカミングディを6月に実施、4名の出席者があった。看護部に案内したり実習先でも卒業生に声をかけ、状況の把握も行えた。	学生のアンケート結果を考慮し、当日不参加の学生に連絡が取れるよう手段を検討する。ホームカミングディは2026年度も継続する。卒業前に学生に参加を求めするための案内を実施している。
⑤	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3	卒業生の状況については全ての把握は難しい。卒業生による講義や演習の参加を実施し、在校生が卒業後のキャリアを考えることができることを目的とした教育活動に反映できるよう取り組んでいる。	引き続き継続する。

(5) 学生支援

評価基準4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

評価項目		自己評価	取り組み状況	課題と改善策
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	就職担当者が2年時の11月頃よりガイダンスを行い、個別相談を行っている。できるだけ本人の希望を尊重するよう関わっている。希望者には履歴書の書き方を指導している。	学生支援としては、概ねできていたと考える。学生が安心して学べる環境を心がけ、心理的安全性が担保できるよう努めていく。社会人学生に対する教育環境については、どのような支援が必要か、情報から検討する必要がある。社会人に対する支援については、他校の現状も踏まえ、検討する。またニーズの把握や在校生同士の交流なども行っていく。
②	学生相談に関する体制は整備されているか	4	学生担当教員を中心に学生が相談しやすい環境を整備している。学業が継続できない問題があれば、その都度面談し、適切な専門組織を紹介している。	
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	学生支援機構や母体病院や関連病院の奨学金制度など、手厚く対応できている。	
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	学校保健法規定により、年1回レントゲン検査を行っている。年度途中より毎日の健康チェック表は中止し、実習前までの記録とした。学生の状況に応じた対応を心掛けた。	引き続き継続する。
⑤	学生の生活環境への支援は行われているか	4	学生担当を主として生活環境について情報収集し、必要があれば支援に努めている。行政からの学生や家族への生活支援は、広報として情報公開し、学生が活用できるよう環境を整えている。	引き続き継続する。
⑥	保護者と適切に連携しているか	4	単位未取得など進級に関わる事例については、学生に不利益がないよう必ず保護者に対面で説明している。希望があれば、電話や面談で対応している。学則その他変更の場合は、不利益のないよう文書で通知している。成績評価についての文書は、保護者の署名を提出し学生の情報を伝えるようなシステムを取り入れている。	引き続き継続する。
⑦	卒業生への支援体制はあるか	4	就職の閲覧コーナーや対面や電話などで相談に乗るなどの体制はできている。卒業生全員を対象とした同窓会を4年に1回開催しており、卒業生同士や教員との交流の機会としている。	引き続き継続する。
⑧	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	社会人対象の予備校を訪問し、ニーズの把握を行った。社会人入試において、不利益が無いよう配慮している。入試の条件は、社会人経験2年→1年に、現役大学卒業者も社会人の扱いとして、入試を受けやすくするよう配慮した。	2026年度社会人の入学者が大幅に増加し、今後もその傾向は変わらないことをふまえ、社会人を対象とした教育環境の整備について検討したい。

⑨	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3	業者を通しての学校説明会をはじめ、個別に高校訪問などを行い、卒業生の状況報告や新入生の募集活動などを行っている。高校により希望があれば体験授業を行い、看護の仕事をイメージしやすいよう取り組んでいる。	個別での高校訪問などを行う。経済的支援が充実できるよう、高等教育修学支援制度の指定について検討する。
---	---	---	---	--

(6) 教育環境

評価基準 4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

評価項目	自己評価	取り組み状況	課題と改善策
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	ハード面ではその都度修理できるよう努めている。教材については、ガイドラインの範囲内で整えることはできているが、実習や演習に使用する物品については課題が多い。システム面では全館フリーWi-Fiを採用している。教材により、うまく活用できないこともあったが、その都度対応はできていた。	経年劣化もあり、故障により機能しないこともある。その都度法人と調整し、修理対応していく。実習や演習に使用する物品については、法人との貸し借りだけでなく、学習効果を考えて検討いただけるよう努めたい。
② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	実習施設については新たな実習場所の申請も終わり、現状は整っている。その他のインターンシップ、海外研修については教育体制として準備できていない。	必要に応じて検討する。
③ 防災に対する体制は整備されているか	4	昨年に引き続き、地域の消防署の協力を得て全学年の学生を対象として防災訓練を実施できた。法令上必要な防火設備についての点検は受けており、必要時整備できている。昨年作成した安全管理マニュアルについて活用を考えていく。	2026年度も9月に防火訓練を計画している。安全管理マニュアルについて。

(7) 学生の受け入れ募集

評価基準 4 : 適切、3 : ほぼ適切、2 : やや不適切、1 : 不適切

評価項目	自己評価	取り組み状況	課題と改善策
① 学生募集活動は、適正に行われており、教育成果は正確に伝えられているか	4	年度の初めにHPに掲載、高校や予備校等に募集要項を案内し、計画に従った募集活動も行えた。進路相談会は、26会場（高校含む）に参加し、直接学生と関わることで自校の特徴についての説明することができた。オープンキャンパスは昨年と同様に7回実施し、うち2回は入試対策講座を取り入れ、当校の外部講師に依頼し、受験生のニーズを取り入れた内容で行うことができた。学校訪問は25校の進路の先生と直接対話することで、当校の入試の状況を説明したり、受験生の現状について情報収集することができた。推薦・社会人入試2回と一般入試を4回昨年度と同様の時期に実施した。合格発表については、HPと文書で結果を郵送し、受験生に不利益のないような方法を続けている。	2026年度より広報の資料を一新し、パンフレットや募集要項等、学生の興味を持たせるレイアウトに変更した。引き続き進路相談会はなるべく出席するようスケジュールを立てる。学校訪問も早期から開始し、特に近隣の高校については進路担当の先生と繋がりを持てるようにする。入試については、2026年度よりAO入試を採用する予定であり、広報活動に取り入れていく。規程を遵守し受験者に不利益のないよう計画・実施していく。
③ 学納金は妥当なものとなっているか	4	法人の協力を得て、学校運営についても滞りなく行っており、学納金は妥当だと言える。学納金や必要な費用は、募集要項やホームページにも詳細を明示しており、入学説明会やオープンキャンパスでも保護者等に説明している。授業料納付は入学後にしており、辞退者への問題が発生しないようにしている。	引き続き継続する。

(8) 財務

評価基準 4 : 適切、3 : ほぼ適切、2 : やや不適切、1 : 不適切

評価項目	自己評価	取り組み状況	課題と改善策
① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	本校は医療法人好寿会を設置者とした学校運営を行っており、学校単独での年度計画予算に基づいた収支管理を行っていない。学校単独の収支状況に関係なく運営が行える状況にある。本校の財務については、学校という特殊性から、人材確保。人材育成といった役割を担う部門として、評価され運営している。会計監査については法人の経理課が主管しており、財務情報の公開は行っていない。	今後も法人と相談しながら、適切な財務管理を行っていく。
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか			
③ 財務について会計監査が適正に行われているか			
④ 財務情報公開の体制整備はできているか			

(9) 法令等の遵守

評価基準 4 : 適切、3 : ほぼ適切、2 : やや不適切、1 : 不適切

評価項目	自己評価	取り組み状況	課題と改善策
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	関係法令や専修学校設置基準に基づき学校運営を行っている。学生に対しては入学時や実習オリエンテーションなどで適宜指導している。学校におけるハラスメントの防止に関する規定を策定した。日本看護学校協議会主催のハラスメント研修についても、全教員が参加し認識の統一を図るようにした。	引き続き、教職員の研修会を開催するなど、組織として運営できるようにする。自己評価だけでなく、学校関係者評価も採用し、公表できることを目指す。
② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	学生便覧へ個人情報保護の規定を掲載している。学生には入学オリエンテーションや実習オリエンテーションにて適宜指導している。また、個人情報の保護に関する特別講義を実施している。	今後も継続する。
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行うとともに、結果を公開しているか	4	昨年度より自己点検自己評価実施し、教員間での内容の共有もできた。課題や問題点の改善も行っていく学校関係者評価は継続している。2025年度よりHP上に公表することができた。	今後も目標に沿って達成度を評価し、課題を明確化する。学則変更により自己点検・自己評価を義務化したため、委員会のメンバーを中心として適切に運営していく。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価基準 4 : 適切、3 : ほぼ適切、2 : やや不適切、1 : 不適切

評価項目	自己評価	取り組み状況	課題と改善策
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	数年前より3年生全員で実習病院の災害訓練に参加し、患者役としての役割を担う中で、地震や災害が発生した際の備えや救助活動について学ぶ機会となった。学校内の施設利用については、12月に業者を介して高校からの依頼があり、看護専門学校を目指す学生に、実習病院の見学後に実習室で体験授業を実施する機会があった。また、必要時に法人の新人教育で実習室を使用することもあった。	今後希望があれば外部機関や地域の方々に学校施設の利用を勧めたい。
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	実習の一環として地域の社会活動に参加しているが、学生にとっては地域の方との交流は看護者を目指す立場として多くの学びに繋がった。実習以外では、松原市主催の交流会や老健施設のイベントに一部の学生が参加することができた。	今後も継続する。